

1年次生のワールドカフェ体験

はじめに…

人は、自分の興味関心のあることには、誰かに背中を押されなくても、自らアプローチしていくことができますが、だからといって、自分の興味関心のあること以外は知らなくても良い、ということにはなりません。特に、次代を担う者として、大きな視野を持って世の中を見ろという経験は必要です。

その意味において、札幌厚別高校では社会の今日的な課題と、その課題をめぐる世の中の動向をグローバルな視点から捉え、課題解決の方策について考察する事を通して、学びの幅を広げる機会を設定しています。同時に“今を生きる一人の存在としての自らの立ち位置”も考えるという意図もあります。

今年度は、キーワードを“**持続可能な社会**”とし、国外の貧困問題、環境問題、食糧問題、水問題の側面からアプローチし、来年度は国内に目を向けていくことを計画しています。その手立ての一つが、この**ワールドカフェ**です。

ワールドカフェって？

1995 年に開発・提唱された、グループによる意見交流の方法で、「**カフェのようにリラックスして自由に意見を述べ合う**」ことなのです。

と、言うことで今年度 1 年次生に、2 つの特別プログラム(**出前授業**)を用意しました。

- 1 丸吉日新堂印刷株式会社 代表取締役 **阿部晋也**氏によるバナナペーパーも用いた持続可能な社会にむけた講演
- 2 JICA 北海道 市民参加協力課長 **二見伸一郎**氏によるアフリカの水問題に焦点を当てた講演



阿部氏《人は夢見たところまで行ける》(10/5)





二見氏《アフリカの食糧問題と水問題》(10/19)



各クラスでのワールドカフェと全体発表の様子

★10月5日は阿部氏の《**人は夢見たところまで行ける**》という演題で、自身の生い立ちからアフリカのザンビアと共同開発し、廃棄されるバナナの皮を原料に紙を作り様々な製品に展開するプロジェクトについて話されました。発展途上国への支援は必要不可欠ですが、お金や物、人的支援だけでは不十分。大切なのは自分の足で立てるような“場”を支援すること。経済的自立のため産業をおこし、それを営むことで貧困問題や環境問題を解決していくという“視点”を新たに提示していただきました。講演では生徒達にバナナペーパーで作った名刺大のカードを配り、生徒達はその感触や臭いなどを実際に確かめる機会を持ちました。

★10月19日は二見氏の《**アフリカの食糧問題と水問題**》という演題で、特にエチオピアの水問題を二見氏が撮影したスライドを用いながら問いかけました。私達が普通に手にする水が、エチオピアでは大変貴重なもので、それを手にするための現実を知ることができました。最後に質疑応答があり、「どうしたらJICAの職員になれるのか」といった質問も出て、関心の高さをうかがわせました。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

それぞれ講演のあと、HR教室で**ワールドカフェ**を行い、講演を聞いた感想やバナナペーパーの仕事を通してお金を得ることによって平均寿命が延びるのは何故か、というテーマなどについてグループで意見の交流をしました。グループのメンバーも三度入替をして、最後はグループの代表者が、クラス全体へ話しの内容を発表しました。

いつもは、自分達の身の回りの話題が中心なのが、今回はアフリカをはじめ世界へ目を向けながら、食糧問題、水問題、貧困問題を考え、広い視野から、自分達は一体何ができるのかを考える契機となりました。